

大相撲九月場所観戦印象メモ

<1> 序盤戦（5日目まで）を終えて

全勝は、玉鷲・北勝富士・王鵬の三人の平幕力士だけになってしまい、後に続く一敗も貴景勝・豊昇龍・若元春・錦富士・千代翔馬の五力士だけ。五日間でこの状況だと、先が思いやられる船出になった。横綱は照ノ富士が二敗、大関で一敗なのは貴景勝だけで御嶽海は二敗、正代に至っては四敗という惨状。この調子で進むと、運さえ良ければ誰でも優勝できるのではないか。番付という肩書き付きの地位をご破算にして、全員参加の「技量審査場所」として、その結果によって新しく番付を作り直したらどうか、とさえ言いたくなってくる。不満も多々あるものの、細かな点を見ていくと将来につながるような明るい煌めきもないわけではなかった。若隆景が三連敗という予期せぬスタートとなったが豊昇龍・若元春・翔猿などが勝ち負けは別として良い動きをしているのが目についた。錦富士・平戸海・翠富士などの若手が、さほど恵まれた体軀でもないにもかかわらず、基本的に忠実な理詰め相撲で活躍しており、次の世代が育ってきている感じがした。

<2> 中日を終えて

さて中日を終ってどんな状況になるのだろう、と不安と心配を胸に毎日眺めてきたのだが・・・。

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
8戦全勝					北勝富士
7勝1敗					玉鷲、
6勝2敗		貴景勝			高安、若元春、錦富士、王鵬、千代翔馬

三役以上では貴景勝が二敗で辛うじて生き残っているが、ほかはすべて平幕力士。三敗でこの後に続いている三役以上の力士は、照ノ富士・若隆景・霧馬山だけだが、照ノ富士はいつ脱落しても不思議でいような相撲。北勝富士は低い腰の構えが目立ち、それゆえにおっつけとはず押しの効果が力強く表われている。また、玉鷲は37才という年令を感じさせないようなスピードと前進圧力で、突き押しが効率よく決まっている。とは言ってもこの二力士が千秋楽まで突っ走るという図式も、まだまだ考えにくい。5勝3敗の中にも良い動きをしている力士がいるので、この先はまだ読み切れない。混戦を抜け出すのは、果たして誰だろう。

<3> 中盤（10日目まで）を終えて

成績	横綱	大関	関脇	小結	平幕
9勝1敗					玉鷲、北勝富士
8勝2敗					高安、錦富士、
7勝3敗			若隆景	霧馬山	翔猿、王鵬、千代翔馬

9日目までで4敗になってしまった照ノ富士は10日目から休場。北勝富士が高安に敗れたことにより全勝はいなくなり、北勝富士と玉鷲が一敗でトップに並んだ。ここで、にわかに高安の存在が浮かび上がってきたし、三敗の中でも霧馬山・翔猿が切れ味の良い動きをしているので、まだまだ先が見通せない。大関陣は、正代が9日目に負け越してここまで1勝9敗、御嶽海は3勝7敗と風前の灯。頼みの綱の貴景勝は6勝4敗で、この表にも載らない状態。

#### <4> 終盤の土俵そして千秋楽まで

11 日目、御嶽海も負け越しが決定し、大関からの陥落が決定。横綱も大関ももはや飾りにすらならない状態で場所を進んで行く。

玉鷲は北勝富士を下して単独トップになり、高安も 3 敗に後退。そんな中で淡々と「自分なりの相撲」を取りまくって 3 敗を堅持し続けている翔猿も目を離せない存在になってきた。

12 日目、さすがの玉鷲も緊張の極致か、若元春に難なくさばかれてしまい 2 敗に後退してしまっただが、北勝富士は貴景勝にはたき落とされ、錦富士も翔猿に敗れたので、玉鷲の単独トップは変わらず。

13 日目、好成绩力士同士の直接対決が続き徐々に絞り込まれてきた。玉鷲は錦富士を破って二敗を守り、北勝富士は翔猿を退け、日に日に力強い相撲を見せる高安が霧馬山を下し 3 敗に残った。

終盤になって好取組が続く反面、勝ちを急いで引きや叩きで楽して勝とうとする淡泊な相撲も目立ち、失望・落胆の土俵も見られるようになった。

14 日目、玉鷲は自分よりも背の低い翔猿に対して低い姿勢から頭であたり、素早い足運びで一気に土俵外へ突き飛ばした。腰の構えも安定しており、足運びと手仕事のみごとに協奏している今場所の玉鷲の相撲に翔猿はひとたまりもなく転げ落ちた。余談だが、翔猿は相手力士に転がされた時にかなり派手な転がり方をするが、これは柔道で言う「受け身」と同じで「怪我をしない転び方」になっている。ぶつかり稽古を積み上げた力士ならではの腕前（つまり稽古で得た実力）だと見ている。

高安も鋭い立ち合いで豊昇龍をのけぞらせておいて、引き落とした。場所毎に力をつけてきている豊昇龍だが、何もせぬ間に土俵に這いつくばった。

北勝富士は若隆景の巧さに敗れ錦富士も貴景勝の突き押しに屈して四敗に後退し、飾（ふるい）の目に残ったのは、玉鷲（二敗）と高安（三敗）となった。

千秋楽、直接対決は玉鷲が一方向的な攻めで勝ち、二度目の優勝となった。

	1 敗	2 敗	3 敗	備考
10 日目	玉鷲、北勝富士	高安、錦富士	若隆景、霧馬山、翔猿、王鵬、千代翔馬	
11 日目	玉鷲、	北勝富士、錦富士	若隆景、翔猿、高安	
12 日目		玉鷲	北勝富士、錦富士、翔猿、高安	
13 日目		玉鷲	北勝富士、錦富士	
14 日目		玉鷲	高安	
千秋楽		玉鷲		

#### <5> 今場所活躍した力士たち

賜杯争いの流れを辿ると、今場所活躍した力士の名前がずらりと並ぶ。ベテラン力士である玉鷲・高安と次の時代を感じさせるような新しい名前の登場の二極化が感じられた。

そして新しい顔ぶれの中には、壁を突破しそうな力士もいたし、まだまだ壁が高くて越せなかった力士など様々で、ここ数場所の動きに注目したい。

殊勲賞＝玉鷲・翔猿、技能賞＝若隆景、敢闘賞＝高安と発表されたが、いつものように私の見方を勝手に書いて見ると・・・。

若隆景は序盤に三連敗でもたつき、「辛うじて 10 勝に漕ぎ着いた」という印象が強い。

基本が身に備わった上で、ひとつひとつの取組の流れの中で可能なことを矢継ぎ早に打ち出して休みなく攻め続ける翔猿の相撲の方が技能的な評価に値するように感じた。

恒例の「私が選んだ三賞」は、殊勲賞＝玉鷲、技能賞＝翔猿、敢闘賞＝北勝富士・高安

<6> これからどうなる 「だろうか」

爆弾を抱えた横綱照ノ富士はいつまで持つだろうか。

横綱・大関が誰もいなくなってしまうことを予測しているだろうか。

大関の昇進基準・陥落規則・復帰の特例が「頼りにならない大関」の原因になっていることに気がついているだろうか。

三場所の成績だけを見て昇進させた大関が長続きしないことに気がついているだろうか。

負け越した大関が、「来場所勝ち越せば陥落しないですむ」と思っていないだろうか。

二場所負け越して陥落した大関が「来場所 10 勝すれば又戻れるんだ」と思っていないだろうか。

気になることが沢山あるが、

<7> おまけ 玉鷲讃歌（折り込み都々逸：たまわし）

玉鷲らしさで前向き走り 若手蹴散らし賜杯抱く

たいしたもんだよ真っ直ぐ攻める 若さあふれる尻の肉

たゆまぬ努力でまだ取る相撲 若さの秘訣は四股てっぼう

1984年11月16日生まれで間もなく38才になる。通算成績は748勝716敗2休（部屋にコロナが発生したため命令により休むことになったので個人記録としては無休の扱いになっている）。

東前頭3枚目で13勝2敗の優勝なので、来場所は三役に昇進する可能性が高い。上位陣が安定した力を持っていないので、まだまだ活躍を期待する声が多い。

ことによると、まだもう一度ぐらい賜杯を抱くこともあるような気がする。

そして、さらにおまけとして、相撲協会八角理事長を代弁してみたら・・・

助けて下さいまた玉鷲さん 湧かせる相撲でしっかりと

\*玉鷲プロフィール（日本相撲協会 web）

<https://www.sumo.or.jp/ResultRikishiData/profile/2629/>

以上